

「令和5年度いわて新農業人チャレンジファーム第12回研修を開催しました！」

第12回の研修は、令和5年8月18日(金)、19日(土)に、雫石町南畑のコテージむらで行いました。

今回の研修は、「岩手の果樹栽培」と題して、花巻市葡萄が丘農業研究所の工藤英夫所長から、本県の果樹栽培の現状や特徴等について講義していただきました。

工藤所長は、「300本の樹木を育成することは、300人の従業員を抱えていることと同じ。農家は社長であり、従業員の体調管理や病気になっていないか、張り切りすぎていないかなど気を配ることが仕事。」とのお話がありました。

また、これからの果樹栽培での課題について、「温暖化への対応や労働力をどのように集めるか、獣害対策など、行政に頼るのではなく、農家自身で考えて実行していかなければならない。」とのお言葉をいただきました。

実習では、キャベツとはくさいの定植、だいこんの間引きやじゃがいもの収穫等栽培野菜の管理・収穫を行いました。

ねぎやえだまめでは、生育初期で茎が切られる虫害が見られたため、今回は殺虫剤を植穴処理したのちに定植しました。

また、じゃがいもの収穫では、日光に当たり緑化したじゃがいもが見られ、畝の表層付近までいもが育っていることが確認できました。

炎天下の中、盛りだくさんの実習内容でしたが、受講生皆さんが率先して動き、予定時刻よりも早く終了することができました。

次回の研修は、9月2日(土)に北上市にある岩手県農業研究センターと公益財団法人岩手生物工学研究センターで、岩手県の先進農業技術への視察研修を行う予定です。



講義「岩手の果樹について」

講師：花巻市葡萄が丘農業研究所長 工藤 英夫 氏



キャベツの定植の様子



だいこんの間引きの様子



じゃがいもの収穫の様子